



▲職人さんに教えてもらい、そば打ちに初挑戦！（東海中）

かいほつ

59号

題字 東海中学校
三年 瀬野木 星矢

岡崎市現職研修委員会

特別支援教育部会

平成20年 12月 10日発行



学芸会での温かな交わり

上地小学校長

安藤 真好

ドドンド、ドーン、ドン、ドン、ドン、ドンの太鼓の音が体育館で打ち鳴らされる。舞台では、大小十個の太鼓を囲んで、はっぴや鉢巻を身に付けた、けやき学級の七名の子供たちが正面に立ち、その周りの担任や支援者、中学生（けやき学級卒業生）、六年生有志ら二十三名とともに、一斉にばちを振っている。

「でこんこ。でこんこ。でこんでん」とかけ声を出し、体でリズムを刻みながら、お互いにアイコンタクトをとって、全体の勢いをつけていく。舞台の端では、ピーヒヤラ、ピーヒヤラと、みんなをリードするように横笛が吹かれている。

けやきの子供たち一人一人の表情は、笑顔いっぱい、会場の人々に見ていただくのがうれしくてたまらない様子である。出演後、五年生のA子は「おうこのひとみ先生が教えてくれて、上手にできた」と言っていた。こうした上地八幡太鼓を学芸会の定番として演奏できるのも、学区の太鼓集団「應呼」の皆さんの温かいご支援のお陰である。練習日に合わせて学校に来られ、子供の手を取って太鼓打ちを繰り返し教えてくださった。

一方、二日前の校内学芸会には、五年生が、学区の介護施設やグループホームから、介護サービスを受けていらつしやる高齢者の方々を招待した。二十名ほどの高齢者は、車椅子に乗った方が多く、子供の付添いで、ひととき劇や音楽を楽しんだ。手拍子や歌声が出たり、笑ったり、付添いの子の手をぎゅっと握り締めたりしていた姿などが印象的であった。

「あの人は、普段、施設では寝てばかりいるのに、あんなに目を輝かせて、生き生きしている。本当に驚きました」と付添いの介護員が話された。学芸会を通して、特別支援教育が大切に行っている「ともに生きる」を実感することができた。障がいのある人を理解し、互いに尊重する気持ちを育むには交流しかない。その推進のために、特別支援学級担任と交流担任、コーディネーター、校長、そして学区の支援者がスクラムを組んでいる。

子どもと親の集い 30周年記念交流会

今年で六回目の「ハイキング」
美山ブロック

生平小 教諭 山田 哲也

秋の少年自然の家は、きれいな落ち葉やドングリがいっぱい。そんな中で、午前中はオリエンテーリングをしました。秋の食べ物の描かれた六つの特設ポイントを探して、山の中をあららこちらへ。各ポイントには、ごほうびのお菓子もあるのでみんな一生懸命。お昼の豚汁作りでは、親子で包丁を使って野菜を切ったり、まきを割って火をおこしたりしました。持参したおにぎりとおいしい豚汁で大満足。

午後からは、子供たちはアスレチック遊び、おうちの方は懇談会。少し寒かったけれど、元氣いっぱい充実した時間を過ごした交流会でした。



▲みんなそろって「はいポーズ」

「赤ずきんちゃん」そとゲーム

葵・城北ブロック

城北中学校 一年 後藤 遥

中学生になって初めての交流会で、私は赤ずきんちゃんの役を演じました。小学校のみんなも喜んで見ていたのでよかったです。

広幡小のわなげポケモンゲットをやりました。あと葉中の大きなオセロをひっくりかえせ！もよかったです。時間内にひっくり返さないといけないのであわてました。どんだん葉中の子がひっくり返してきたので、がんばって赤にしました。メダルがもらえて楽しかったです。また来年が楽しみです。



▲「赤ずきんちゃん上演～城北劇団～」

三教研究夏季研修会報告

岡崎小 教諭 堀場 雅夫

豊川で開催された今年の三教研究夏季研修会で、岡崎から連尺小学校の加藤文美先生と六名小学校の高津幸臣先生のお二人が提案されました。

加藤先生は、友達とかかわりながら学習する楽しさを体感するためにハンドベルの実践を発表されました。その実践では、個の能力や経験に応じて担当の音を決めたり、分かりやすい楽譜を作ったりするなど、工夫がありました。そのため、子供たちはお互いにかかわりながら練習できました。そして、終業式やブロック交流会などでの発表を通して、子供たちに自信がついたということでした。

高津先生は、通常学級に在籍する発達障害の子供への対応を通じた支援の実践を報告されました。実践では「子供の実態やニーズを的確にとらえること」「本人や保護者の願いを大切にすること」を念頭に置き、「個々の教育的ニーズに応じた教育」を目指されました。さらに、専門家の助言を得て、よりよい支援策を検討され、その結果、児童に顕著な改善が見られました。保護者、専門機関、学校の連携の意義を感じました。今後、このような取り組みが、学校全体に広がることの必要性を訴えています。

今年度も、岡崎の先生方の実践の確かさが認められた思いがしました。

職場体験学習

竜海中 教諭 中野 悟

本校に在籍する二年生五名は、八月六・七日を中心に学区にあるパン屋「はくもにか」、明徳保育園で職場体験学習を行いました。

「はくもにか」では、パン生地からパンの形を作り、焼き上げるまでの作業を行いました。その後、竜海中学校職員室で注文されたパンを届ける仕事もしました。明徳保育園では、園児たちとプールに入ったり給食を食べたりしました。

「はくもにか」は障がいのある人たちの雇用を考えている作業所です。また、明徳保育園の職場体験に参加した生徒は、その園の卒園生です。保護者も教師も安心して子供たちを職場体験に出せたことをありがたく思いました。



▲理解ある職場にめぐり合えたことは幸せ

社会見学

岡崎ライオンズクラブ

岡崎ライオンズクラブ様が、今年も市内の特別支援学級の小学生・教師・保護者三百十五名を、社会見学に招待してくださいました。

九月三十日に、東山動物園へバスで出かけました。ゾウやコアラなどを実際に見たり、スカイタワーに上ったりして、子供たちは目を輝かせて楽しく見学していました。昭和四十年から招待を続けてくださっている岡崎ライオンズクラブ様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

楽しかった社会見学

三島小 五年 今泉 陽太

東山動物園に連れていってかれて、ありがとうございました。ぼくが一番見たかった動物は、百じゅうの王ライオンです。おりに近づくと、グワツという鳴き声がひびいていました。おそるおそる見てみると、オスとメスがいました。オスはきばが大きくて、目がこわい感じで、すごかったです。スカイタワーもよかったです。スカイタワーのけしきは最高でした。ライオンズクラブのみなさん、来年もまた連れて行ってください。

保護者の声

六ツ美北部小 松井 咲世

今年で三年目の社会見学。今年も、東山動物園に行ってきました。

クラスの子供たちは行く前に何をメインで見てくるか決めてきたようで、私の娘は何と「バク」。なかなか珍しい動物を選んだなあと思いつつ見に行くけど、バクは食後だったのでしようか、寝てばかりでした。

みんなの選んだ動物を見て回り、スカイタワーにも登りました。怖くて泣けちゃう子や下をのぞけない子など、皆さままででしたが、子供たちはいろいろな経験をし、楽しい一日を過ごすことができました。毎年、貴重な体験の場を与えてくださるライオンズクラブの皆様方、本当にありがとうございました。

「動物園のきりんさん」

福岡小 三年 金羽木 彩香



学級紹介

常磐中学校



▲「絵手紙」1年 中島美由紀

教諭 中里 百合子

常磐中学校C組は、本年度に新設されたばかりの学級です。男子一名、女子二名の計三名で三人とも学年が違います。C組での活動以外にも交流クラスに入っている勉強や行事も積極的に頑張っています。一学期の終わりには講師を招いて絵手紙を書きました。そして九月に行われた「長寿者訪問」でお年寄りの方に絵手紙をプレゼントし、喜んでいただけました。

絵手紙を掲載して

年 中島 美由紀

最初は苦戦したけど、描いているうちに、だんだん楽しくなってきました。そして、キウイとネーブルオレンジの絵手紙ができました。お年寄りの方の心にしつかり届いたと思います。

形埜小学校

教諭 大須賀 正弘

形埜小学校チャレンジ組は、一年生男子一名のできたばかりのクラスです。国語や算数などの勉強は、教師と二人だけの落ち着いた雰囲気の中で行っています。体育や図工などは、通常学級の子供たちと一緒に、にぎやかな環境で活動しています。給食は全校児童がランチルームに集まって、一緒に食べます。

一年生だけでなく、上級生も一緒に遊んでくれたり、困っていると助けてくれたりして、とても居心地が良さそうです。

子供の得意な科目は図工です。絵を描いたり、作品を作ったりする活動にはいつまでも集中して取り組んでいます。また、最近ではひらがなを少しずつ覚えてきて、絵本を読んでもらうのが大好きになりました。自分で読めるようになる日も近いと思います。



▲「おかざきっ子展に出すよ」

温かいサポートに感謝

元福岡小 宮地 章子

特別支援学級の子供たちと触れ合った日々は、びっくり箱の中に飛び込んだような楽しい毎日でした。その子なりの自己主張をもち、真っ直ぐに向かってくる子供たちのエネルギーには、圧倒させられました。一人一人の個性を、もっともっと輝かせてあげたいと思っ、いろいろと作戦を練っても、計画通りにいかず、少し落ち込むこともありました。なかなか、一筋縄ではない子供たちなのです。

担任だけでは、うまく対応してあげられない場面で、例えば交流学習、委員会活動、クラブ活動などで、多くの先生に声をかけてもらったり、その子に合った役割を与えてもらったりしたことが、子供たちを成長させてくれました。周りの人の温かいサポートに感謝する一年でした。



かけがえのない宝物

元竜南中 杉浦 ゆかり

特別支援学級の生徒との思い出のひとつに文化祭でのハンドベル演奏があります。きれいな音色のハンドベルに生徒たちは夢中になりましたが、全校の前で発表できるような曲にするには多くの時間を必要としました。階名で歌ったり手拍子のリズムに合わせてベルを鳴らしたり、みんなで心をひとつにする練習をたくさん積みました。

文化祭当日。普段は自信なさそうに背中を丸めている生徒たちが、堂々と胸を張って立派に演奏することができました。全校生徒が耳を傾け、演奏に拍手喝采してくれた時、胸の奥の方からじんわりと温かいものが込み上げてきました。舞台を降りてきた生徒たちの満面の笑みは、私にとってかけがえのない宝物となりました。

特別支援での三年間は私の教員生活の最も穏やかな日々でした。



通級指導教室

岡崎市には、四つの学校に通級指導教室があります。矢作南小には学習障害の教室、広幡小には言語指導の教室、竜美丘小と矢作北小には情緒障害の教室が設置されています。

「ティラノじゃないよ!」

矢作南小 吉田 正明

本校の通級指導教室では、算数や国語の補充学習の他に、自立活動の一環として、子供の興味のあることを取り入れて、コミュニケーション能力を高める練習をしています。

ある日のことです。T君の大好きな恐竜で遊ぼうと、画用紙で首の長い恐竜を作ったあげたら、「セイスモサウルスだあ」と言ってお喜んでくれました。「ティラノサウルスも作って」と、言ってきたので、首の短い恐竜を作ったあげると、「そんなのライオンじゃん! ティラノじゃないよ!」と、泣きながら文句を言ってきました。何も知らずに適当に作ったことが大きな間違いでした。

恐竜博士で、ティラノ大好きなT君にとって、ティラノをライオンにされてしまったショックは大きかったようでした。もう、授業になりませんでした。これは名誉挽回しなければいけないと思、次の時間までに恐竜図鑑を借り

てきてティラノサウルスを作っておきました。

T君の驚く顔を見てやろうと待ちかまえていると、教室に入ってくるなり、「すげえ! アロサウルスじゃん」と、うれしそうに叫びました。(あれ? ティラノじゃないの) ティラノサウルスのつもりで作ったので、かなりショックでした。「ティラノじゃないの」と、聞くと、「ティラノじゃないよ」と、軽くかわされてしまいました。「ティラノは前足の指が二本で、アロサウルスは三本なんだよ」と、図鑑を持ってきて、うれしそうに説明してくれました。よく見ると体つきはほとんど同じなのが、指の本数が確かに違っています。さすが恐竜博士、その詳しさに感心していると、T君はハサミを持ってきて、指を一本、チョコキンと切り落とし、大好きなティラノサウルスにしてしまいました。

「先生、ティラノになったよ」と、とても満足そうに笑っていました。



▲ティラノになったよ!